

# まちかど

## 我がまちを語る

### 先見性に富み真摯

今の鷹岡地区は、三つの大きな契機を乗り越えてきたといえます。一つは鷹岡伝法用水（通称二本樋）の完成（二六年）です。この用水は水稲の作付面積を拡大し、生産力を増大させました。



石川 軍治さん  
入山瀬天王町(75歳)

二つ目は、明治二十三年の富士製紙第一工場の進出です。これは鷹岡地区にとって産業革命と呼んでもいいものでした。

富士製紙の近くには、多くの技術者が住み、商店街もできました。これが現在の鷹岡本町通りで、明治時代にはガス燈がついていたといわれます。

三つ目は、大月線の開通です。自動車の普及と相まって、地区の北部を発展させ、ベッドタウン化が進みました。

こういう歴史を踏まえてみれば、鷹岡地区の人は概して真摯な気性で、先見性に富んだ人が多いといえます。



かつて、早川一枝さんという日本を代表する水泳選手が出た富士市から、久々にあらわれた水泳界のホープ藍川君。身長百八十二センチメートル、体重七十八キログラムと高校一年生とは思えない立派な体格です。



国民体育大会夏季大会水泳100m自由形少年男子の部で優勝

あいかわけんいち  
**藍川健一さん**

希望ヶ丘 日大三島高校1年生

水泳を始めたのは七歳のとき。それまで全く泳げず心配したお母さん（啓子さん）が、市内のスイミングクラブへ入れたのがきっかけでした。

大淵第一小学校六年生のころからメキメキと頭角をあらわし、大淵中学校時代は全国大会で四位に入賞しています。

ことし四月に日大三島高校へ進学してからは、毎日七千メートル泳ぐ練習を積み重ね、今回見事優勝しました。

藍川君は、お父さん（隆さん）いわく「のんびり屋で、プレッシャーは受けない方」という大物。将来は「日本のトップスイマーになりたい」という希望も、まんざら夢ではなさそうです。

## あの人・この人・こんなこと

わらべうたを集めて二十余年

小幡幸敬さん(鷹岡本町三)



には本にする予定です。

◇子守うた  
坊やはよい子だ ねんねしな  
ねんねのお守は どこへ行た  
あの山越えて 里へ行た  
里のお土産に 何もろた  
でんでん太鼓に 笙の笛  
ねろてばヨー ねろてばヨー  
ねろてば ねないのか  
この餓鬼め

◇なわとびうた  
熊さん 熊さん 回れ右  
熊さん 熊さん 手をつけて  
熊さん 熊さん お出なさい  
お嬢さん おはいんなさい  
ジャンケン ポン  
負けたら すぐに お出なさい

「子守うた」や「なわとびうた」などの「わらべうた」は、皆さんも幼いころ歌ったことがあると思いますが、現在はだんだん歌われなくなってきました。

「このままではなくなってしまう」と危機感を抱いた小幡さんは二十余年前より「わらべうた」の採集を始め、百四十編余を集めました。集めた歌は採譜をし、来年

富士鷹岡線の鷹岡本町交差点に毎朝立つこと十九年。地域の人からは「早起き鳥」と呼ばれているのが、横溝栄さん(七十六歳)。市内で最年長の交通指導員です。

横溝さんは「私たちは雨の日など、視界の悪いときほど必要とされています。」と年を感じさせない頼もしさ。朝、子供たちにあいさつされると、目もとをほころばす優しいおじいちゃんです。

### 最年長の交通指導員

横溝栄さん(鷹岡本町三)

